

南
慧
昭
氏



南慧昭ご住職の誌上歌説法

「仏心は歌心！心の健康」

はじめまして

えしやう
昨今、連日のように新聞・テレビでいかがわしい事件・事故・自殺等が報道されています。過去にくらべ、年々、悪質かつ陰湿になってきています。また、家庭、学校、職場においても会話不足による心の病が社会問題になっております。

人間は天から授かった目・耳・鼻・口を持ちながら、言葉、笑顔が少なくなっています。最近、政府もようやく大きな問題として取り上げ、学校教育のあり方や道徳について議論するようになりました。一体、今後の日本社会はどうなっていくのか、皆さん心配でならないのではないのでしょうか。さて今回、大分岡病院の「顔が見える広報誌『おかのかお』にご縁を頂きましたので、誌上歌説法を試みてみたいと思います。

私は大分市竹中の禪宗、曹洞宗勝光寺の長男として生まれましたが、自分のわがままを通して、子どもの頃からの夢であった東京へ出て行き、以来36年間(社長を8年間)高度経済成長の真ただ中、サラリーマンそして都会生活を体験いたしました。

その後、お寺を継承するために大分に帰省し、61歳から約2年間の修行の後、住職に就任いたしました。現在、得意の音楽を活かした新しい布教のスタイル「出前歌説法」で全国各地を寺の仕事の合間にまわっております。

さて、お寺と歌の関係ですが、戦前戦後、お寺は青年団、消防団、婦人会、村役場などの集会の場所としてよく使われておりました。夜になると宴会が始まります。兄弟4人の自己紹介のあと、いつも歌わされてきました。そこがまず、人前で歌うことの始まりです。長男の私と次男の光洋、末っ子の高節と3人で、当時の流行の歌を集会で歌われました。姉は高校時代に合唱団で声楽を学び、その後、大分で姉のコマーシャルソングがラジオから流れていました。(つづく)

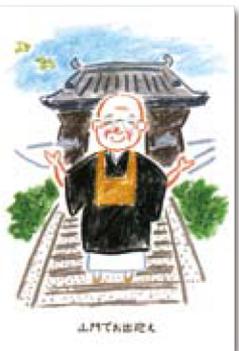
出前歌説法で歌う自作の歌

大野川讃歌

作詞 うめこうじ 孝史
作曲 南 えしやう
編曲 Ryo 井上

鵬悠然 天を舞い
碧き水面に川せみ遊ぶ
遠き峰々 尋ねれば
雲の涙が一滴
落ちて緑の糧となる
久住 祖母山水の母
静かに眠りて目を覚ます
心の古里、
それは大野川

清流日本一になった
記念の歌



南こうせつさんの兄で、シンガー・ソングライターでもあるご住職。「仏の教えを肩ひじはらずに感じてもらいたい」と、「出前歌説法」に全国各地を駆け回っています。

南 慧昭 氏
昭和17年 大分市竹中の勝光寺の嫡男として誕生
昭和41年 鹿児島大学卒業後、キュービー(株)入社
平成13年 駒澤大学仏教科夜間部で仏教を学ぶ
平成15年 禅宗曹洞宗の修行専門僧堂明光寺で2年間修行
平成17年 禅宗曹洞宗本山永平寺にて修行終了の儀式を行い、勝光寺の住職となり今日に至る



南慧昭えしやうご住職の誌上歌説法

「仏心は歌心！心の健康」

② 出前歌説法のはじまり

昭和35年ごろは、ラジオから流れてくるアメリカンポップス、ジャズのニューサウンドに魅せられ、本堂でジャズのリズムを木魚で打ち鳴らして、先住(父)からよく叱られたのを思い出します。その後、高節はプロのミュージシャンに、光洋はお寺を継ぎ(副住職の時に病で亡くなる)、私は民間企業に就職いたしました。私は大学時代のサークル活動で熱心に行っていたグリークラブ(男声合唱団)の経験から、横浜に住居を構えてからも横浜の混声合唱団・コールジョイの指揮指導を18年間務めることになりました。

住職になるための修行も終わりに近づいた頃、長老からの「あなたは音楽活動を長年やってきた経験があるのだから、若い方にもお寺に足を向けていただくとともに、音楽を取り入れた新しい布教スタイルを作り上げてみてください。今からの時代の布教にもつながる」という一言で歌説法がスタートした次第です。

公民館、福祉施設、介護施設などを訪問し、『お説法・三分間座禅・童謡等の歌』を通して、おじいちゃん、おばあちゃんに元気になっていただく。若い方にはお寺を身近に感じていただくとうわげです。(つづく)



出前歌説法で歌う自作の歌

我が家が一番

作詞 うめこうじ 孝史
作曲 南 えしやう
編曲 Ryo 井上

親子三代 住み慣れて
家族の絆 太くなる
春の雨音 叩いても
大きな手のひら
受け止める
人の心の温もりを
あなたは
教えてくれました
見守り瓦の
見守り瓦の
頼もしさ

家族の絆の歌

南こうせつさんの兄で、シンガー・ソングライターでもあるご住職。「仏の教えを肩ひじはらずに感じてもらいたい」と、「出前歌説法」に全国各地を駆け回っています。

南 慧昭 氏
昭和17年 大分市竹中の勝光寺の嫡男として誕生
昭和41年 鹿児島大学卒業後、キュービー(株)入社
平成13年 駒澤大学仏教科夜間部で仏教を学ぶ
平成15年 禅宗曹洞宗の修行専門僧堂明光寺で2年間修行
平成17年 禅宗曹洞宗本山永平寺にて修行終了の儀式を行い、勝光寺の住職となり今日に至る

南こうせつさんの兄で、シンガー・ソングライターでもあるご住職。「仏の教えを肩ひじはらずに感じてもらいたい」と、「出前歌說法」に全国各地を駆け回っています。



南えしやう慧昭ご住職の誌上歌說法

「仏心は歌心！心の健康」

③ 高度経済成長そして崩壊

『心の健康』について語るには最近、どうして人間関係に潤いがなくなり、他人への思いやり、優しさが足りなくなつたのかということを語る必要があります。高度経済成長するにつれ、企業間、個人個人の競争が激化し、気づいてみると人に対する思いやり、親切心が希薄になつていったような気がいたします。

過去を振り返り、反省することにより、少しでも温もりのある心を取り戻せるきっかけになるヒントがあるのではないかと思っております。戦後、日本は貧しい生活でした。貧乏生活から抜け出し、欧米並みの文化生活に少しでも近づきたいと皆、思っていました。

軍隊を持たず、国民の全パワーを経済発展に向けてがむしやりに歩んできた結果、数字上では世界の経済大国と肩を並べ、また追い越すまでに成長いたしました。夢にまでみたマイホームを持ち、西洋風の文化生活も出来るようになりましたが、もうひとつ何か心を満たされないものを皆さん、感じていたのではないのでしょうか。

給料は上がったものの、家、他のローンの返済、教育を始め、お金のかかる生活。お母さんも働くため、家族全員忙しい日々。時間の余裕もなくなり、会話すらままならない状況。お父さんも疲れ果てて当たり散らす始末。これではまともに子どもへの道徳教育は出来るはずがありません。ちょうどこの頃、忘れもしません。世界中に、バブル経済の崩壊が起きました。

私が、会社の社長に就任した矢先のことでした。在籍8年間は必死になって対応に追われ、リストラも経験いたしました。修行を終え、住職になって今、振り返ってみますと、あれは人間の飽くなき物欲に対する天からのおとがめが下つたのだと思っております。日本中、個人も含めて、負債を負いました。あれから約20年が経過いたしました。(つづく)

出前歌說法で歌う自作の歌

Sixty

3回目のハタチ

作詞 うめこうじ 孝史
作曲 ナンチャ
編曲 Kenta
歌 ナンチャ

頑張つて来たね 今日までは
仕事だって遊びだって
子育てだって

気がつけばシックスティー
一息入れよかな

世の中進むけどそれはそれ
旅に出よう

コンサートへ行こう
旅に出よう

コンサートへ行こう
まだ時間はあるから

老けこまずに一步を踏み出そう



新曲のレコーディング



南慧昭えしやうご住職の誌上歌説法

「仏心は歌心！心の健康」

④ 心の病

高度成長の後遺症として出てきているのが、ストレスによる心の病、また、多くの社会問題等々です。世の中のあまりの急成長に人間が振り回されたのが大きな要因だと思います。

一つの具体的な例として、大家族の崩壊があると思います。家の中心に家長がおり、おじいちゃん、おばあちゃんと3〜4世代が一緒に住んでいました。そして各家には先祖をまつた仏壇がありました。毎朝、仏壇に手を合わせ、食事の際にはみな、自然の恵みに感謝をし、合掌して食事を頂きました。おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさんからも子どもたちは毎日の生活を通して、道徳教育を受けていました。

しかしながら、核家族になった現在、親戚一同が集まる機会が少なくなりました。都会で暮らしている方はほとんど仏壇を持っていません。先祖への感謝もなく、家長の存在も薄くなつてきております。時代の流れ

とはいえ、それで良いのでしょうか。先祖があつて、自分たちがあることを認識し、子どもたちに継承していかないと自己中心のひとりよがりの子どもに育っていくのではないのでしょうか。家族の絆があつてこそ、お隣、地域住民、そして友人、人と人の輪が広がっていくものだと思います。人と人とのコミュニケーション（人間関係）の基本は、人への思いやり、温かさ、いわゆる慈しみの心だと思えます。（つづく）



出前歌説法で歌う自作の歌

笑顔をもどして
〜地球星のラブソング〜

作詞 うめこうじ 孝史
作曲 Kenta
編曲 Kenta
歌 ナンチャ

地球星さん泣いてます
お熱を出して泣いています
緑のお山崩されて
生命の海を埋められて
働くくめできましたが
誰もがみんな知らん振り
大人になった子供達
少しばかりのお休みを
地球星にあげましょう
涙をふいてね

南こうせつさんの兄で、シンガー・ソングライターでもあるご住職。「私の教えを肩ひじはらずに感じてもらいたい」と、「出前歌説法」に全国各地を駆け回っています。

南 慧昭 氏
昭和17年 大分市竹中の勝光寺の嫡男として誕生
昭和41年 鹿児島大学卒業後、キュービー(株)入社
平成13年 駒澤大学仏教科夜間部で仏教を学ぶ
平成15年 禅宗曹洞宗の修行専門僧堂明光寺で2年間修行
平成17年 禅宗曹洞宗本山永平寺にて修行終了の儀式を行い、
勝光寺の住職となり今日に至る

南こうせつさんの兄で、シンガー・ソングライターでもあるご住職。「仏の教えを肩ひじはらずに感じてもらいたい」と、「出前歌說法」に全国各地を駆け回っています。



南 慧昭 氏

昭和17年 大分市竹中の勝光寺の嫡男として誕生
昭和41年 鹿児島大学卒業後、キュービー(株)入社
平成13年 駒澤大学仏教科夜間部で仏教を学ぶ
平成15年 禅宗曹洞宗の修行専門僧堂明光寺で2年間修行
平成17年 禅宗曹洞宗本山永平寺にて修行終了の儀式を行い、
勝光寺の住職となり今日に至る

南慧昭えしやうご住職の誌上歌說法

「仏心は歌心！心の健康」

⑤ 東日本大震災

2011年の東日本大震災の被災地に6月と12月に訪問し、この目で見た状況をお話したいと思います。

石巻好文館女子高校では2階建て校舎の1階が浸水し、生徒と避難してきた近隣の多くの住民が4日間飲まず食わずで寒さに耐えたこと、老人や体調を悪くした人々を自衛隊のヘリコプターで運んだことなど、校長先生から生々しいお話をお聞きいたしました。

音楽部(女性コーラス)と和尚さんとのコラボレーション『和尚さんと歌いましょう in 石巻』。津波で浸水した石巻イオンショッピングセンターの会場で多くの生徒、地元の皆さんと大合唱いたしました。

翌日、地元の石巻FM放送に生出演。女川では高台にあり無事だったお寺で講演し、住職から平地にあった多くのお寺が流されたこともお聞きいたしました。ビッグバン(石巻河北総合センター)避難所の講演では、家族を失った多くの方が、始めて30分間くらいまでは全く無表情の放心状態でしたが、童謡を歌い始めたらず皆、涙が止まらなくなり、泣きながら「赤とんぼ」「七つの子」「ふるさと」「里の秋」などを歌いました。やっと人間の心を取り戻してくれたのだと思いました。

終演後、何人かのおばあちゃんが涙を流しながら、「和尚さん、家、長男夫婦、かわいがっていた孫、たんす預金、すべて失いました。もう明日から生きていく気力がありません」と私に話してくれました。私は、「おばあちゃん、生命は天からの授かりもの。自分で生命を絶つてはいけません。天寿を全うしましょうね。全国、皆が応援していますからどんな我がままでも言つてね」と言葉を返すのがやっとでした。

今後、講演を通して被災者の窮状を伝え支援を頂くように努めていきたいと思っております。(つづく)

出前歌說法で歌う自作の歌

大きな大きな人の輪
〜お布施の歌〜

作詞 うめぐうじたかし
作曲 ナンチャ
編曲 Kenta
歌 ナンチャ

ありがとうございますと

心をこめて

素直に言えますか

(皆さん言えますか)

どれほど親しい仲であれ

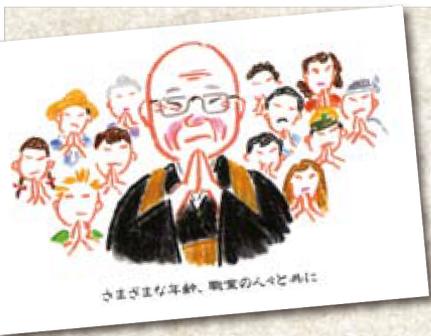
ひとに施し受けたなら

感謝の気持ちで

表しましょう

心の日本語語るだけ

大きな人の輪が円くなるの



南こうせつさんの兄で、シンガー・ソングライターでもあるご住職。「私の教えを肩ひじはらずに感じてもらいたい」と、「出前歌説法」に全国各地を駆け回っています。



南 慧昭 氏

昭和17年 大分市竹中の勝光寺の嫡男として誕生
 昭和41年 鹿児島大学卒業後、キュービー(株)入社
 平成13年 駒澤大学仏教科夜間部で仏教を学ぶ
 平成15年 禅宗曹洞宗の修行専門僧堂明光寺で2年間修行
 平成17年 禅宗曹洞宗本山永平寺にて修行終了の儀式を行い、
 勝光寺の住職となり今日に至る

南慧昭えしやうご住職の誌上歌説法

「仏心は歌心！心の健康」

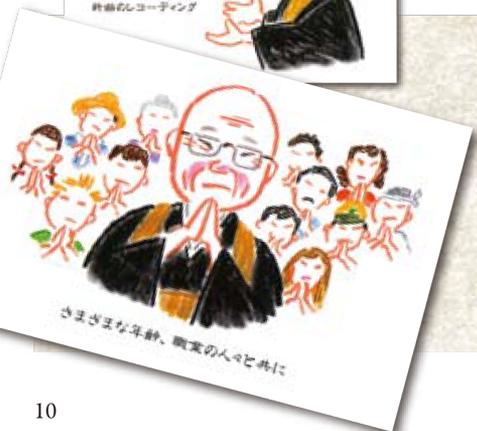
〈最終回〉

心の絆、慈しみの心

今、これを読んでいただいている方々は、私を含めて傍観者や評論家になるのではなく、戦前戦後の激動の時代、多くの災害、他を生き抜いてきた体験や知恵をぜひ、子どもや孫に伝えてほしいと思います。

今の子どもはパソコン、携帯電話を上手に使いこなし、確かに多くの情報、知識を持っていますが、体験、忍耐がありません。現在は時代背景が変わり、生活環境が変わりました。しかし、昔の家族、ご近所、友人付き合いのように、親切で思いやりがあり助け合った時代を思い出し、それを現代風に再構築してはいかがでしょうか。

時間がかかるとは思いますが、地道に自分の周りから取り組んでいけば、少しずつ改善できると思います。日本人は本来、人を思いやる心を持ち、勤勉で努力家で忍耐力もあります。必ずや経済大国でありながら、バランスの良い豊かな心を持った人々が多くなり、日本人が持っていた、他人に対する思いやり、優しさを取り戻せるものと思っております。今、まさに時代がそれを求めています。



出前歌説法で歌う自作の歌

ははの思い

（うちのお母さん）

作詞 並木 敏孝
 作曲 南 えしやう
 編曲 Ryo井上
 歌 南 えしやう

まぶたをとじれば

働く姿

手足を休ます 暇も無い

冬の寒さに 素足のままで

土間の飯たき つらからう

俺の母さん 日本の母だ

判っているよと

優しく笑う

見守り続ける

母の思い